

週 報

1995年1月29日 降誕節第5主日

巻15 44号

1994年度教会主題

「十字架のキリストを証する」

聖句 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。
だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。

コリントの信徒への手紙一 6章20節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. 一人一人が伝道と奉仕を。

日本キリスト教団

横浜港南台教会

〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電 話 045-833-5323

ファックス 045-833-6616

振 替 00290-4-13994

牧 師 秋 吉 隆 雄

の追及と政府の答弁は被災者の痛みを感じていないのではないかと
思うほど白々しく聞える。ボラン
ティア活動は頼もしく、子供たち
の屈託のない笑顔が救いである。

私たちの教会員で、ご家族やご
親戚の家が壊された方はおられる
が、亡くなった方はいない。教区
から阪神地区の諸教会の被害状況
の一覧表(掲示板に貼ってありま
す)が送られてきた。全壊、ある
いは半壊した教会が数教会ある。
被災者の避難所、又遺体安置所にな
っている教会もある。再建には
数年かかると言われている。心の
傷は癒されない方もあるだろう。
被災者の負った苦難が新しい連帯
を生む契機になり、希望をもって
立ち上がって欲しい。教会もでき
るだけの支援を続けていきたい。

日本に住む限り地震とは切り離
せない。日頃の心積もりが大切で
あることを改めて教えられた。中
でも近所付き合いが生死を分ける
ようだ。平穏無事な時は地域活動
は煩わしいが、緊急の時、行政は
間に合わず近所の人々が「命綱」と
なる。

—牧 師 室 より—

兵庫県南部地震は大変な被害を
もたらした。想像を越える激震で
あったらしい。五千人以上の方が
亡くなった。最高の医療と最善の
看護をしても、愛する人の死は耐
え難く悲しい。地震で召された
方々は無念であったろうし、遺族
の悲しみはどれほどであろうかと
思う。焼け跡からまさに「骨」を
拾う家族の姿はあまりに悲惨であ
る。三十万人が家を失い不便な
避難生活を強いられている。地震
の恐怖と将来への不安、そして今
しなければならぬことで疲労と
心労は量り知れない。火事場泥棒
はいるらしいが、大きなパニック
や暴動が起こっていないことは幸
いなことである。

行政の立ち遅れが指摘されてい
る。必要な所に必要なものを送り
届けることは、あの緊急時には至
難のことであろう。国会での野党